

防錆管理士養成講座

通信教育

第52回 防錆技術学校 募集案内

後援

経済産業省

国土交通省

中小企業庁

日本商工会議所

社団法人 日本防錆技術協会

<http://www1.sphere.ne.jp/jacc>

受講のすすめ

活躍が期待される専門技術者「防錆管理士」

平成 23 年 3 月 11 日、三陸沖を震源とするマグニチュード 9.0 の巨大地震が発生し、東日本太平洋沿岸の各地に巨大津波が押し寄せ近年まれに見る大惨事となった。

全半壊の家屋 29 万 4 千戸、被害額は工場、住宅等 10 兆 4 千億円、電気、ガス、通信のライフライン施設 1 兆 3 千億円、道路、港湾等の社会基盤施設 2 兆 2 千億円に達し（内閣府緊急災害対策本部発表）、塩害による耐久消費財、機械設備のさび・腐食も大きな問題となっている。

また、原子力発電所が被災したことに端を発した計画停電や節電対策は、資源を節約し有効活用する気運を全国民に浸透させた。産業界においても省資源への取り組みは不可欠なものとなり、腐食に起因する事故を防止し、設備を長く維持するための「防錆技術」は、省資源と安全管理の基本技術として、より一層重要なものとなった。

当協会は、51 年前に防錆技術学校を開校し、防錆防食の専門技術者「防錆管理士」の養成事業を実施し、既に 1 万 2 千名を超える資格者が国内外の第一線で活躍している。

国の機関ともいえる科学技術振興機構のホームページの「技術者 web 学習システム」では、防錆防食技術の基礎理論を取り上げ、動画で解りやすく解説している。内容も防錆技術学校の基礎共通課程のカリキュラムとほぼ同一で、防錆技術学校受講前の予習に活用していただきたい。

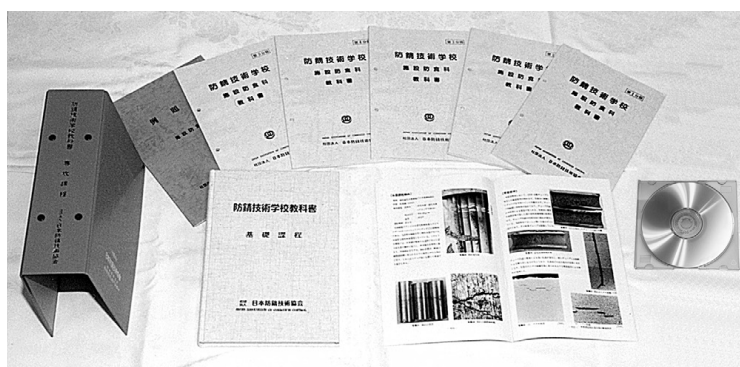
技術の伝承が叫ばれる今日、企業におかれては従業員教育として、また、個人にあってはご自身の技術力の証に、是非、本教育を受講され真の防錆防食技術者となられることをおすすめ致します。

東日本大震災で被災された皆様方に心よりお見舞申し上げますとともに、一刻も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

「防錆管理士」資格

防錆管理士資格とは、社団法人日本防錆技術協会が実施する防錆技術学校において、共通課程、専攻課程の全科目が防錆管理士認定基準に達し、面接講義の全日程に出席し、筆記試験及び防錆管理士認定論文審査に合格した修業者に授与される権威ある資格であります。

防錆管理士に認定された方々は、1万2千名を超え、その卓越した専門知識を生かし、建築・土木、電力・通信・ガス、機械、化学、自動車、プラント、電気・電子、運輸・物流などのあらゆる産業分野の設計、製造、施工、検査、管理の各部門で防錆防食技術のスペシャリストとして活躍し、確固たる地位を築いております。



キャリア形成促進助成

- 従業員が希望する教育訓練を中小企業が受講させた場合、経費と訓練時間中の賃金の1/3が助成されます。
- 本校の場合は、面接講義が助成金の対象になる可能性があります。都道府県により対応が異なる場合がありますので、最寄りの独立行政法人雇用・能力開発機構 都道府県センターにお問い合わせください。
- 申請には、面接講義の時間割、受講科等を記載した資料が必要になりますので、学校事務局までお申し出下さい。

教育の概要

1年間の通信教育です。通信制ですから「いつでも、どこでも」学習することができます。

教育は、**共通(基礎)課程**と防錆防食専門分野別の**専攻課程**からなっています。

共通(基礎)課程では、防錆防食を学ぶために知っておかなければならない腐食の定義、電気化学の基礎、金属の腐食と電気化学、腐食の種類、環境と腐食、防錆防食方法の基礎などをお教えします。電気化学は、CD教材を用いて、また、参考資料として化学の基礎をCDに収め、必要な時に、学ぶことができます。

専攻課程には、**施設防食科・防錆塗装科・防錆塗装科別科・めっき科・防錆包装科**の5科があり、この中から希望する科を受講申込時に選択します(複数の科を同時に受講することもできます)。

専攻課程では共通(基礎)課程で学んだことをもとに、科目専門の講師が指導にあたります。各科は、15の専門科目で編成され、詳しく記述された教科書と丁寧な通信指導により、深い知識が得られます。

防錆技術学校スケジュール

行 事	日 程
募 集 期 間	平成24年 3月23日まで
開 講	平成24年 4月1日(教材発送日)
教 育 期 間	〃 4月1日～平成25年3月7日
共通(基礎)課程	〃 4月1日～7月初旬
学習指導(希望者)	〃 5月9日(東京会場)
〃	〃 5月11日(大阪会場)
専攻課程	〃 7月中旬～平成25年1月
面接講義(必須)	〃 9月6～7日(大阪)
〃	〃 10月4～5日(東京)
認定論文作成期間	〃 11月初旬～平成25年1月中旬
総合教育	平成25年 2月初旬～平成25年3月7日
修 業 式	〃 3月8日

面接指導

1. 学習指導

学習からしばらく遠ざかっていた方には、共通(基礎)課程講師による学習指導(希望者)を行い、腐食防食理論の理解を助けます。

2. 面接講義

面接講義では、新技術や新情報について専門の講師による講義や各科専攻課程の講師が講義と質疑による教育を行いますので通信教育に不足しがちな講師とのコミュニケーションを得ることができます。

共通(基礎)課程

防錆技術学校では、腐食・防食を理解しやすいように、金属の構造と特性、電気化学の基礎、防食の基礎、腐食とは、また、どのような腐食の種類があるのか、から理解を始めます。

私たちの身の回りの環境と腐食は、どのような係わりあいがあるのか、耐食材料はどのような特性を持っているか、防錆防食設計の考え方、腐食を防ぐための防錆防食法の原理と方法について理解し、それぞれの専攻科で応用する能力を養います。

学習科目と内容

科 目	科 目 内 容
1 腐食の基礎理論Ⅰ	金属の構造と特性、電気化学の基礎、金属の腐食と電気化学、不動態と電気化学について学習します。
2 腐食の基礎理論Ⅱ	均一腐食、局部腐食、濃淡電池による腐食、異種金属接触腐食、すきま腐食、応力腐食割れ、擦過腐食等について腐食の形態、腐食の原因、機構、現象の特徴について学習します。
3 環 境 と 腐 食	大気、淡水、海水、土壌、その他（主に化学）に分類し、それぞれの環境の特徴とその腐食について学習します。
4 耐 食 材 料	金属の特性から見た腐食や耐食性、主な耐食材料の特性について学習します。
5 防 錆 防 食 法	防錆防食技術について基礎的な原理、概要、防錆防食設計及び塗装・ライニング、金属被覆、環境処理、防錆包装、電気防食法について学習します。
腐食形態写真集	大気中における鉄鋼、銅、ステンレス鋼、亜鉛を対象に、様々な腐食形態の写真と腐食がどのような条件で発生したのかを解説。通気差電池腐食、溝状腐食、すきま腐食、粒界腐食、脱成分腐食、応力腐食割れ、水素誘起割れ、腐食疲労、エロージョン・コロージョン、擦過腐食、高温腐食。その他ニッケルめっきの孔食、CASS試験で成長した銅の腐食生成物、塗膜のふくれと塗膜下の状況等を写真で解説します。

補助教材

化学の基礎	CD教材	共通課程の教科書を読み進め、記号などお忘れの場合に、お開け下さい。
動画で見る腐食の基礎	CD教材	電気化学の基礎を動画で、説明します。

専攻課程

1. 施設防食科

超高層建築物、鉄塔、海上長大橋、海上空港と連絡橋、地下に張り巡らされた各種配管類、石油産業を中心とした化学プラント、発電プラント、海洋・港湾など施設は広範囲にわたり、環境条件も様々です。金属を多用するこれらの施設は、新設されるもの、長期間使用され補修されるもの、など様々です。近年、コスト削減のため、化学プラントでの点検の延長、建て換えずにメンテナンスによる各種施設の延命などが要求されております。

当科では、これらの要求に答えるべく、施設の建設、運用、保守管理に携わる方々に、施設の防食設計、適正材料の選定法や経済的比較をはじめ、施設毎に発生する腐食の症状と原因及びそれに対処する適用防食方法について学習します。あわせて、メンテナンスを決定するための防食検査方法、保全技術についても、学習いたします。

学習分野及び科目と内容

分野	科目	科目内容	
基礎論	1 施設防食設計	施設の耐久性は、設計時点ですでに決定している場合が多い。事故は起こるべくして起こっている。プラントを例に施設の防食を設計時点で考えることを学習します。	
	2 耐食材料	各種施設に使われる耐食材料（金属、無機及び有機材料）について、より詳しく学習します。	
	3 金属被覆 4 非金属被覆	金属によるコーティングと有機材料による防食、塗装やライニングについて学習します。	
	5 電気防食 6 経済的価値論 7 環境処理	電気防食法についての原理・方法と具体的な施工方法及び応用、腐食性環境のコントロール法並びに各種防食法の経済的比較方法について学習します。	
	各論	8 機械装置の防食 9 埋設配管の防食 10 建築物の防食 11 橋梁・鉄塔の防食 12 石油・化学工業の防食 13 船舶の防食 14 海洋・港湾施設の防食	熱交換器・ボイラー・内燃機関等の機械装置、ガス・水道を始めとする各種配管、建築物及び建築物内配管、橋梁・鉄塔、石油プラントをはじめとする化学装置、船舶、港湾施設等産業に欠くべからざる施設類の腐食原因と防食方法について学習します。
管理論		15 防食検査管理	腐食対策を講じるには、現在の状況を把握する必要があります。的確なデータを得るためにはどうすれば良いか。施設を安全に稼働させるにはなど、保全管理のノウハウについて学習します。

専攻課程

2. 防錆塗装科

塗装は、家庭で使用されるレンジ、冷蔵庫、トースター、洗濯機、自転車から、自動車、各種運搬機器、工事車両、また、大型鋼構造物の橋梁、プラント、鉄塔、船舶など幅広く利用されております。金属で作られた機器、施設は、その機能を永く安全に保持することが求められております。この要求にこたえるには、何より、腐食による劣化を防がなければなりません。

当科では、被塗装物が使用される環境及び要求される性能を把握し、環境にやさしい塗料を考慮した塗装設計、施工管理、原価管理、保守管理、これから、ますます、重要となるメンテナンスを如何に効率的に行うか、などの能力を養うため、施工者のみならず、管理者及び設計者の方々も、防錆塗装の基礎から応用、広く国際社会に対応するためにISOなどの国際規格を含め、講義を通じ最新内容を習得できます。

学習分野及び科目と内容

分野	科目	科目内容
基礎論	1 塗料・塗装基礎理論 2 鋼構造物用塗料 3 工業用塗料	塗膜の防食機能、塗膜の形成と劣化、仕上がり外観を理論的に、また、塗膜の防食理論となぜ塗り重ねが必要か、層間付着性はなど各塗料の特徴について樹脂別、目的別に学習します。
	4 物理的素地調整法 5 化学的前処理法	防錆塗装の良否を左右する要因として前処理は非常に重要であるため、ISOなど最新情報を基にプラスト処理、りん酸各皮膜について、理論から実務まで学習します。
	6 塗装用機器 7 塗装用機械・設備	塗装に際して使用する塗装機器、足場、塗装ガンの特性、塗装ロボットの基本、塗装ラインの設備設計について、基本事項から利用の仕方を学習します。
各論	8 鋼構造物塗装設計Ⅰ 9 鋼構造物塗装設計Ⅱ 10 工業用塗装設計Ⅰ 11 工業用塗装設計Ⅱ	橋梁、プラント、石油タンク、鉄塔などの陸上鋼構造物、船舶、ペンストック、水門などの水中・海洋鋼構造物、鉄道車輛、自動車、建材、家電製品などの具体的な塗装方法及び塗装設計方法について学習します。
	12 塗料の試験法 13 塗膜の試験法	使用する塗料の管理方法、性能検査をどのように行い安定した品質としたら良いかの各種試験方法と塗り替えの時期判定方法について学習します。
	14 鋼構造物塗装管理 15 ライン塗装管理	塗装を行うための準備機材、塗料の使用量、膜厚検査方法、塗膜欠陥の原因と対処方法、塗装コストの考え方などについて、塗装品質の管理技術について学習します。

専攻課程

3. 防錆塗装科別科（電力、通信関係）

塗装は、冷蔵庫のような家庭用品から自動車、大型鋼構造物の橋梁、プラント、送電鉄塔、電波塔に至るまで、幅広く使用されております。これらの製品や諸施設の耐久性は、防錆塗装の良否により決定されます。鉄塔などでは、溶融亜鉛めっきの消耗による鋼材の腐食が始まる前に、延命処置として塗装によるメンテナンスが重要となってまいります。

当科では、鉄塔などの亜鉛めっき面の塗替え、メンテナンスの判定とその施工法、電力関連施設などの長寿命化によるコスト低減、通信関係施設の延命化など、学習しやすいように、非塗装物の環境把握、その塗装設計と管理手法について実務に携わる方はもちろん、管理者及び設計者の方々も、防錆塗装の基礎から応用まで習得できます。

学習分野及び科目と内容

分野	科目	科目内容
基礎論	1 塗料・塗装基礎理論 2 鋼構造物用塗料 3 工業用塗料	塗膜の防食で要求される事項を理解して、前処理とのかかわり、流動性のある塗料がなぜ塗膜になるか、たれとの関係は、塗膜が剥がれないためには、塗膜はなぜ劣化するのか、100年防食の塗料など、塗装を行うための基礎を学習します。
	4 物理的素地調整法 5 化学的前処理法 6 溶融亜鉛めっき	防錆塗装の良否を左右する要因として前処理は非常に重要であるため、ISOなど最新情報を基にプラスト処理、りん酸塩処理及び、各所で溶融亜鉛めっきによる防食が限界となり、塗替え塗装に入っている、亜鉛の耐食性などについて理論から実務まで学習します。
	7 塗装用機器 8 塗装用・機械設備	塗装に際して使用する塗装機器、足場、塗装ガンの特性、塗装ロボットの基本、塗装ラインの設備設計について、基本事項から利用の仕方を学習します。
各論	9 工業用塗装設計 10 鋼構造物塗装設計Ⅰ 11 鋼構造物塗装設計Ⅱ 12 鋼構造物塗装設計Ⅲ	鉄塔、電力施設、橋梁、プラント、海洋構造物、鉄道車両、自動車、家電と実例をもとに設置される環境に応じた塗装設計方法と工程について学びます。
	13 塗料・塗膜の試験法	使用する塗料の管理方法、性能検査をどのように行い安定した品質としたら良いか、塗料の状態の試験、塗装後の試験方法について学びます。
	14 鋼構造物の塗装管理 15 鋼構造物メンテナンス	塗装を行うための準備機材、塗料の使用量、膜厚検査方法、また、鉄塔を主に塗替え時期の決定方法など具体的手法とその管理手法について学びます。

専攻課程

4. めっき科

めっきは、ジュエリーなどの装飾品、電子機器、また、自動車、建築物などの防食性と高級感の向上、防食性を主とした橋梁と幅広く利用されております。それぞれの用途により、金、銀、ロジウム、ニッケル、クロム、亜鉛、アルミニウムなどの金属により様々な方法で被覆されています。

当科では、めっき製品を設計する上の最適設計法、電気めっき、化学めっき、真空めっき、貴金属めっき、合金めっき、溶射などの各種処理技術並びに防錆性能、腐食特性を学習するほか、陽極酸化（アルマイト）、金属着色、拡散浸透などのめっき関連技術についても学ぶことができます。

機能めっき、最新の各種法規制、安全管理など、日進月歩の最新技術情報についても講義と補助教材を通じて学習します。

めっき製品を発注する側、製造する側、いずれの方にも幅広い知識が習得できます。

学習分野及び科目と内容

分野	科目	科目内容
基礎論	1 めっき概論	めっき技術の習得に直接必要な電気化学の一般的基礎と工業的に効率の良いめっきについて学習します。
	2 めっきデザイン 3 前処理	めっき製品の最適設計並びにめっきを施す前の研磨、脱脂、酸洗、活性化等について学習します。
	4 電気めっきⅠ 5 電気めっきⅡ 6 貴金属めっき・合金めっき	銅、ニッケル、クロム、亜鉛、すずめっきや、金、銀、ロジウム等の貴金属めっき並びに合金めっきについて、その処理方法と皮膜の特性を学習します。
各論	7 化学めっき 8 陽極酸化 9 金属着色	プリント基盤に用いられる化学めっき、軽量化金属として需要が高まっているアルミニウム、マグネシウムの各種着色方法について学習します。
	10 熔融めっき 11 金属溶射 12 真空めっき・拡散浸透	めっき鋼板や各種鋼構造物に用いられる熔融めっき、近年注目されている溶射技術、電子産業で多用されている真空めっき、拡散浸透の理論から応用までを学習します。
	13 試験法	各種めっきの試験評価方法について学習します。
管理論	14 工場管理 15 環境対策・安全衛生	めっきライン設計、品質管理体制、コスト対策などめっきに関するあらゆる管理技術並びに環境対策、安全衛生、劇毒物などについて幅広く学習します。

専攻課程

5. 防錆包装科

防錆包装の対象製品は、原材料から加工された鋼板、各種金属部品などの金属製品、電子機器、プリント基板などの電子部品、工作機械などコンピューターが組み込まれた金属加工機などとその対象は広く存在しております。これら様々な金属製品が最終顧客が開梱するまでの間、製造時の品質を維持し、保証することが防錆包装の目的です。

近年、自動車、電気製品、産業機械などは製品周期が長くなり、そのため、保守部品の流通量も多くなっております。また、世界調達による輸出入の増大など、産業のグローバル化により防錆包装がますます重要となっております。

当科では、防錆包装の基礎は勿論のこと、製造時における仕掛品の一時保管、防錆材料として気化性防錆材、防錆油、包装材料としてフィルム、加工紙などの基本資材から具体的な包装方法、輸送、保管、試験検査に至るまで、幅広く習得できます。

学習分野及び科目と内容

分野	科目		科目内容
基礎論	1	防錆包装概論	防錆包装の原理・包装方法の種類・手順など、各論に必要な包装の考えについて学習します。
各論	2	清浄剤	防錆包装に必要な前処理剤及び防錆処理について、工程順に清浄剤から防錆油剤、気化性防錆材、可溶性プラスチック、脱酸素剤、加工紙、フィルム、乾燥剤、テープ類にいたるまでそれぞれの特徴と適用方法について詳細に学習します。
	3	防錆油剤	
	4	気化性防錆材Ⅰ	
	5	気化性防錆材Ⅱ	
6	その他の防錆材料		
7	加工紙・フィルム		
8	乾燥剤・テープ類		
試験法	9	前処理法	
	10	個装法	
	11	固定緩衝包装設計	
	12	輸送容器	
試験法	13	材料・個装試験法	包装材料の試験、防錆材料の防錆性能試験、個装後の防錆試験、貨物試験について総合的に学習します。
	14	貨物試験法	
管理論	15	包装管理	包装管理の目的、包装管理組織、包装費用の総合的な考え方について学習します。

防錆技術学校講師一覧表

(平成23年10月現在)

(敬称略・五十音順)

赤嶺 健一

(株)I H I 部長 博士 (水産科学)

浅見 徹

(株)ナカボーテック 部長 技術士

厚地 一郎

厚地鉄工(株) 関東アスコン 取締役常務

阿部 正美

(株)金杉商工 技術顧問 工学博士

荒牧 國次

慶応義塾大学 名誉教授 工学博士

植野 修一

カンメタエンジニアリング(株) 取締役社長

上野太三郎

日本ペイント(株)

江成 孝文

建設塗装工業(株) 部長

大河内信男

アネスト岩田(株) 参事

大塚 邦顕

奥野製薬工業(株)総合技術研究所 取締役所長

大野 茂

日本大学 准教授 工学修士

岡村 康弘

岡村技術士事務所 所長 技術士

沖 猛雄

名古屋大学 名誉教授 工学博士

遅沢浩一郎

ニッケル協会 顧問 工学博士

神尾 和男

(社)日本防錆技術協会 専務理事

河合 宏紀

カワイ EMI 代表 技術士

神戸 徳蔵

東京都鍍金工業組合 技術顧問

栗栖 孝雄

J F Eテクノリサーチ(株) 主幹研究員 理学博士

源水 秀彦

富士レジン工業(株) 部長

後藤 大

日本防蝕工業(株)

古藤田哲哉

(株)ゴールドスミス 代表取締役社長

齊藤 宏

(社)日本防錆技術協会 事務局長 兼 技術部長 工学修士

酒井 哲也

日本大学 准教授 博士 (工学)

坂内 恒雄

坂内技術士事務所 所長 工学修士・技術士

佐藤 幸弘

元大阪府立産業技術総合研究所

篠原 長政

京大桂ベンチャープラザ マネージャー

柴田 俊夫

大阪大学 名誉教授 工学博士

柴田 守

アイ・エス工業(株) 代表取締役

清水 良直

防錆材技研 代表

鈴木 紹夫

すずき技術士事務所 所長 工学博士・技術士

鈴木 正英

元東急車輛製造(株)

鈴木 雅洋

(地独)東京都立産業技術研究センター 多摩テクノプラザ 所長

鈴木 昌己

日本防蝕工業(株) 部長

高崎 新一

(財)原子力安全技術センター 工学博士

高瀬 勝次

元日揮プロジェクトサービス(株)

高橋 慶

日通商事(株)

瀧山 直之

鳥根県産業技術センター 専門研究員

武田 龍一

元ユケン工業(株)

竹林 浩史

住友金属工業(株) 総合技術研究所 主任研究員

田中 敏明

大同化学工業(株)技術研究所 主任研究員

田邊 弘往

大日本塗料(株) フェロー 工学博士

田原 芳雄

(財)日本塗料検査協会 部長

都島 良治

千代田工商(株) 次長 技術士

中島 博志

鹿島建設(株) 専任部長 工学博士 技術士

仲谷 伸人

(株)ナカポーテック 所長

中出 卓男

大阪府立産業技術総合研究所 主任研究員 工学博士

中野 敏雄

J F Eエンジニアリング(株) 室長

中原 正大

旭化成ケミカルズ(株) 部長 工学博士

中村 隆彌

太陽鉄工(株) 技術士

長野 博夫

(株)材料・環境研究所 工学博士

塗谷 紘宣

日本大学 非常勤講師

根本 憲一

根本技術士事務所 所長 技術士

花川 光

花川技術士事務所 所長 技術士

馬場 宣良

東京都立大学 名誉教授 工学博士

濱村 壽弘

関西ペイント(株) 部長

林 勉

元東急車輛製造(株)

半田 隆夫

東日本電信電話(株)技術協力センタ 所長 博士(工学)

平井 靖男

平井技術士事務所 所長 技術士

福島 稔

(社)日本橋梁・鋼構造物塗装技術協会 顧問

福田 享一

神和木材工業(株) 部長

藤田 栄

J F Eスチール(株) 部長 工学博士

堀 正

堀・日韓技術交流事務所 所長 技術士

前嶋 正受

前嶋技術士事務所 所長 技術士

増子 昇

東京大学 名誉教授 工学博士

松岡 和巳

新日本製鐵(株) 主幹研究員

南 孝男

住友金属テクノロジー(株) 部長

三宅 猛司

名古屋市工業研究所 工学博士

本橋 健司

芝浦工業大学 教授 工学博士・農学博士

諸岡 祐弥

中部キレスト(株)

盛屋 喜夫

日本パーカラライジング(株) 主席研究員

山崎 明良

(株)良建 代表取締役

山崎 龍一

元 神奈川県産業技術総合研究所

山田 卓司

(財)日本塗料検査協会 部長

山田 豊

パーカー興産(株) 部長

山本 勝美

早稲田大学 各務記念材料技術研究所 工学博士

山本 隆

元日本ペイント(株) 工学博士

山本 良雄

元(株)金属化工技術研究所

和田 寛

(株)ネオス 部長

募 集 要 綱

◆ 募集科名・募集人員

施設防食科	150名
防錆塗装科	150名
防錆塗装科別科	100名
めっき科	50名
防錆包装科	50名

◆ 受講資格 高等学校卒業程度の学力を有する方

◆ 募集締切 平成24年3月23日

◆ 会 費（受講費）

受講区分	一 般	正 会 員 ^{☆☆}
新 規	199,000円	185,000円
追加・既 [☆]	105,000円	95,000円

(税込)

- ☆追加とは：専攻科を同時に複数受講される場合
☆既とは：すでに当学校を修業された方が他の専攻科を再度受講される場合
☆☆正会員とは：13頁に記載されている当協会正会員会社の社員が受講される場合

◎会費(受講費)には、副教材「防錆管理」誌など学習に必要な全ての費用が含まれます。
但し、旅費・交通費・宿泊費・通信費等は、各自のご負担となります。

受 講 手 続 き に つ い て

◆ 受講の申込み

- 入学願書（写真1枚 裏面に氏名を記入の上、願書に貼付）を学校事務局へ郵送して下さい。

◆ 会費(受講費)の納入

- 会費(受講費)は、平成24年4月2日～4月27日の間に納入して下さい。
(納入された会費は、返還いたしません。)

◆ 受講費納入方法

- 銀行振込：三菱東京UFJ銀行 本店 当座 7658372
(口座名：(社) シヤ ニホンボウセイギジュツキョウカイ 日本防錆技術協会)
- 現金書留：〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 (機械振興会館)
社団法人日本防錆技術協会 学校事務局宛

(社)日本防錆技術協会 正 会 員

(平成23年10月現在)

アイ・エス工業(株)	(株)ケミコート	中央工産(株)	(株)ネオス
(株)アサヒ	(株)サンコウ電子研究所	中国塗料(株)	パーカー加工(株)
旭興産(株)	シーシーアイ(株)	中部キレスト(株)	パーカー興産(株)
厚地鉄工(株)関東アスコン	J X 日 鋳 日 石 エ ネ ル ギ ー (株)	千代田化工建設(株)	(株)パルテック
アドコート(株)	J F E エ ン ジ ニ ア リ ン グ (株)	東亜ディーケーケー(株)	ビーオーケミカル(株)
(株)イーパック	J F E ス チ ー ル (株)	東海加工紙(株)	東日本電信電話(株)
出光興産(株)	(株)四国総合研究所	東京ガス(株)	比嘉ペイント
伊藤忠プラスチック(株)	S Y N O P E X . I N C	東京メタリコン(株)	(株)日立製作所
エーピーシーエアロスベシャルティ(株)	城北化学工業(株)	(株)東国	ビックケミー・ジャパン(株)
NOFメタルコーティングス(株)	ショーワ(株)	(株)トウペ	(株)プラズワイヤー
(株)N T T 西 日 本 - 九 州	(株)白浜工業	(株)ナカボーテック	マグニジャパン(株)
王子特殊紙(株)	神東塗料(株)	日新製鋼(株)	丸愛産業(株)
大塚化学(株)	新日鉄エンジニアリング(株)	日鐵住金建材(株)	三井金属鉱業(株)
岡本工業(株)	新日本製鐵(株)	日鐵住金鋼板(株)	ミヤコ化学(株)
(有)沖縄建装工業	スガ試験機(株)	日鉄防蝕(株)	(有)宮崎塗装工業
(株)沖縄神洋ペイント	スギムラ化学工業(株)	日東電工(株)	ヤマウチ(株)
カシュー(株)	住友金属工業(株)	財日本ウエザリングテストセンター	山文油化(株)
関西ペイント(株)	制研化学工業(株)	(株)日本エコリアル	油化産業(株)
関西油脂興業(株)	綜研テクニックス(株)	日本化学産業(株)	油研工業(株)
カンメタエンジニアリング(株)	第一高周波工業(株)	(社)日本産業機械工業会	ユケン工業(株)
北日本防食(株)	大同化学工業(株)	日本シービーケミカル(株)	ユシロ化学工業(株)
共栄社化学(株)	ダイニック(株)	日本テストパネル(株)	(株)ユタカ産業
(株)共進	大日本塗料(株)	日本パーカラライジング(株)	(株)ゆにてつくす
キレスト(株)	タイユ(株)	日本ペイント(株)	吉川工業(株)
貴和化学薬品(株)	大洋液化ガス(株)	日本防蝕工業(株)	ラスト・オリウムジャパン(株)
久保孝ペイント(株)	大和化成(株)	日本メカケミカル(株)	菱江化学(株)
恵和(株)	(株)竹中工務店技術研究所	(社)日本溶融亜鉛鍍金協会	ローバル(株)
(株)ケット科学研究所	タマガワ(株)		

- 本 部
- 中 部 支 部
- 関 西 支 部
- 沖 縄 支 部

受講のお問い合わせ・お申し込みは

社団法人 日本防錆技術協会学校事務局

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5番8号
(機械振興会館309号)

TEL (03) 3434 - 0451 FAX (03) 3434 - 0452

E-mail : jacc@mbf.sphere.ne.jp

